

研究テーマ：英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる工夫

所属 土佐山村立土佐山中学校

氏名 濱口富美子

RG JH3

1. 研究の背景

土佐山中学校は高知市の北隣にある土佐山村で 1 校だけの中学校である。小学校も村内に 1 校しかないため、幼いころから同じメンバーで過ごしてきている。お互いを知り尽くしているため兄弟のように仲良くできるという良い面もあるが、学校生活の中で受け身になることが多く、自己表現などを行う場面などでもなかなか積極的に発表することができないことがある。研究対象とする 1 年生は男子 3 名、女子 6 名のクラスである。クラスの仲はよく、男女わけ隔てなくペアやグループなどの活動に取り組むことができる。ペアでの音読練習など協力して行うことができ、少人数のため毎回全員のチェックを行うことができる。授業中は全員が活動に参加できているが、家庭学習が習慣化できていない生徒においては学習内容の定着率が低く、課題となっている。

2. リサーチクエスチョン

学習した表現を使って積極的に英語で質問したり答えたりできるようにするにはどうしたらよいか。

3 予備調査

生徒へのアンケート、授業評価の結果（全学年 35 人）

アンケート結果を見てみると、ALT との授業をととても楽しみにしているようであるが、実際に授業中の活動において 1 対 1 で話し掛けられると緊張してしまうようである。

インタビューテスト

2 学期の初めにインタビューテストを行った。別室において 1 対 1 で 5 つの質問に答える方法で実施した。生徒の反応としては「何を言っているのか、わからない。」と言う声や、「とても緊張した。」と言う声も聞かれた。

授業観察

最初のビンゴなどは、書く速さに差が出て準備の段階に手間取ったが、おおむね楽しく聞く活動ができていたようである。しかし ALT に質問をされていざ答えるなどのアウトプットする場面となると、考え込む様子が見られた。自由にペアを見つけての言語活動では、生徒同士では仲良く積極的に英語で質問や応答ができていたが、ALT に対しては JTL が促さないとなかなか話し掛けられない様子であった。

4. 仮説の設定

(1) 仮説

- 仮説 1 何回か繰り返し聞けば、質問の意味が理解でき、答えられるようになる。
- 仮説 2 全部を聞こうとするのではなく、聞くポイントを示せば、ALT の話す英語が理解できる。
- 仮説 3 英語での答え方がわからないのであれば、様々なパターンを事前に練習しておくことで答えられるようになるのではないかと。

(2) 実践の方法

質問が聞き取れなかったときに、JTL に助けを請うのではなく、もう一度質問を言ってもらえるように、聞き返せる英語が使えるようにする。

毎時間英語での会話練習を取り入れる。

ALT と授業だけではなく、他の場面でも触れ合えるようにする。

5. 計画の実践

2 学期を通して毎時間の最初に 5 分間のペアでの会話練習を取り入れた。5~15 の英語での質疑応答をしよう方法で行った。最初は 5 つから始めて、慣れてきたら 10、15 と段階的に増やした。また ALT とは授業だけではなく給食をいっしょにとったり、昼休みにはバスケットをいっしょに楽しんだり、日常的なふれあいがあったため、彼に対する緊張感や違和感などは薄れてきたように思われる。

6. 実践の結果

2 学期末に再び ALT と 1 対 1 でのインタビューテストを実施した。結果は以下の表のとおりである。(満点 25 点)

実施時期	A	B	C	D	E	F	G	H	I
9 月	19	16	22	19	16	19	17	14	18
12 月	20	18	20	19	16	19	19	15	21

7. 結果の検証

2 学期最初のテストよりも若干の改善がみられた。またテスト自体も 2 回目であったため、テストから帰ってくる表情や様子も、過度に緊張した様子は見られず、概ねリラックスして受けられたようである。しかし質問されたことに対して必要最低限の答えは言うことができたが、さらに情報を加えたり、新たに質問を返したりといった積極的な態度が出てくるまでは、実践の効果は出なかった。

8. 成果と今後の課題

授業ごとのペアでの会話練習は積極的に楽しくできていたが、ALT とのテストで流暢な英語になると聞き取れなかったりして、答えに詰まる場面がみられた。これからは CD 等も多く使用してリスニングの練習の機会を増やし、聞く力を改善できるようにしたい。またスピーチなり英作文なり、自己表現をさせる場面を増やして、自分を表現する力をつけさせたい。